

あきまろ 秋麻呂くん 通信



『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

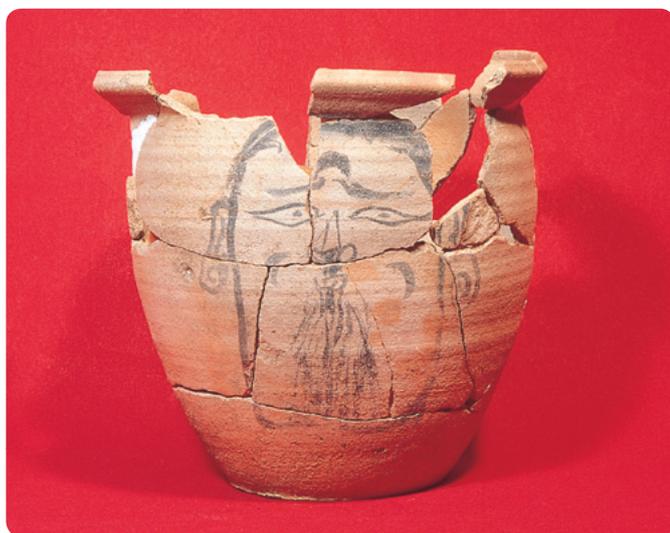
秋田城の宝もの特集

平成23年7月22日 秋田城跡調査事務所



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、みんなに秋田城のことを良く知ってもらい、秋田城との
絆きずなを深めてもらうための情報誌です。今回は、秋田城跡の発掘調査で出土
した貴重な宝ものについて紹介します。



■人面墨書土器

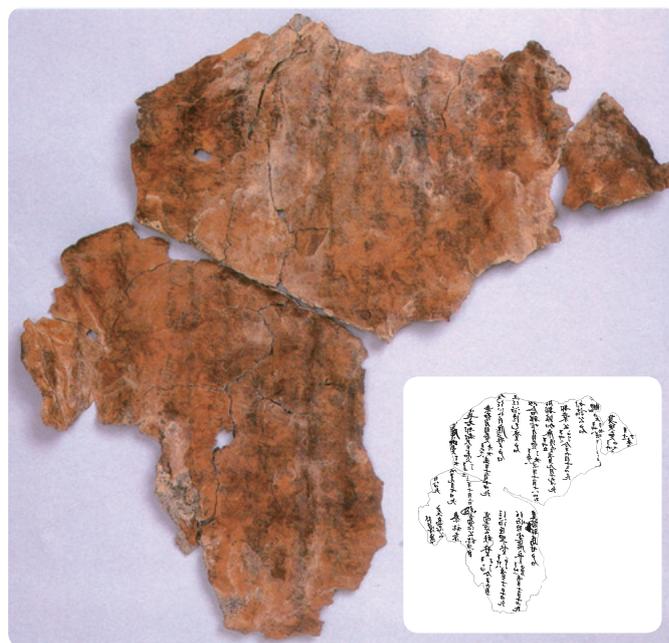
人面墨書土器じんめんぼくしょどきは、病気や悪い出来事を起こす「ケガレ」を祓う儀式に用いられたものです。人々は悪霊の顔を描いた土器の中に息を吹きかけて、ケガレを土器の中に閉じ込め、古代沼の岸边から流すことでケガレを祓っていたようです。最北の出土例で、他の地域の出土例よりも怖い表情をしているようです。

和同開珎銀錢わどうかいちんは近畿地方以外では出土例があまりなく、東日本では唯一の完形品であるため、大変貴重なものです。作られた奈良時代においても希少なもので、品物の売買よりも、建物などの平穩を祈るまじないに使われたと考えられます。

漆紙文書うるしがみもんじょ(死亡帳)は、亡くなった領民の氏名や年齢などを記したものです。「高志公こうしのみみ」や「江沼臣えぬまのおみ」の名前から、北陸からの移民の存在を知ることができる全国でも唯一の出土文字資料です。



■和同開珎銀錢(秋田県指定有形文化財)



■漆紙文書(死亡帳)



時代を語る宝もの

秋田城の創建は、『^{しよくにほんぎ}続日本紀』に^{てんびょう}天平5年(733)に庄内地方にあった出羽柵が秋田村高清水岡にうつされたことに始まると記されています。

出土遺物のなかには、その証拠となる年や、地名

などが記されたものが出土しています。特に^{うのき}鵜ノ木地区にある井戸跡から出土した「天平六年月」が刻まれた木簡などは大変貴重であることから、一括して秋田県の有形文化財に指定されています。



■井戸跡



■木簡「天平六年月」



■木簡「勝寶五年調米」



■刻書平瓦「高水」

建物の屋根などに葺かれた瓦で、高清水の地名にちなんだ「高水」の字が刻まれています。他に「秋田」や「秋」も出土しています。

奈良時代から平安時代の初め頃まで使われた井戸跡から、底に敷かれた^{せん}磚(せん)やたくさんの木簡や木製品が出土しました。「天平六年月」は天平5年の翌年にあたる年が釘のようなもので刻まれています。「勝寶(しょうほう)五年調米」は天平勝寶5年(753)の税(調)の記録です。



秋田城の様子を語る宝もの

秋田城が、出羽国の領民を治め、周辺の^{えみし}蝦夷の人々との交流を行う行政的な施設であったことを示す文字資料や役人の道具、蝦夷との戦いに備えた

軍事的な役割を示す武器類など、どのような政務が行われていたかを示すものが出土しています。



■漆紙文書(計帳)

「和田公(わだのきみ)」など蝦夷系の人々と考えられる氏姓や税を課さない旨が記されており、蝦夷から律令国家の領民になる課程を示す重要な記録と考えられています。



■墨書土器

城内施設の名称や地名、人名、役職名などの貴重な情報が書かれています。



■丸柄(まるとも)・鉸具(かこ)・石帯(せきたい)

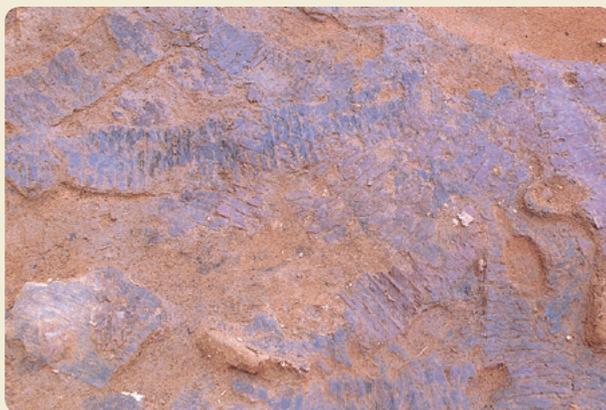
官人が身分を示すためにベルトに付けた飾りやベルトの部品です。

■非鉄製小札甲(ひてつせいこざねよろい)

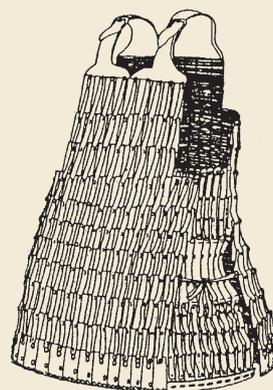
革などで作った小さな板を漆(うるし)で固めたもので、連結して甲にしたものです。当時の甲には鉄製と革製などがあり、それまでの鉄製とは違う当時最先端の革製の甲と考えられ、他に出土例のない貴重なものです。



■小札(鉄製)



■非鉄製小札甲の出土状況



■復元例



文化を語る宝もの

秋田城では、都から赴任した官人が要職を務めていました。そのため、都の貴族が用いた貴重な品物や、まじないに用いる道具、和歌を詠む習慣など、当時の最新文化が持ち込まれていました。

たとえ小さなかけらであっても、都と秋田城の直接的な関係を知ることができる貴重な資料です。また、秋田城が都から遠く離れた最北の城柵であるため、「最北の出土例」となるものも多くあります。



■富寿神寶(ふじゅしんぼう)
平安時代の銅銭の一つです。売買よりもまじないに使われたと考えられます。



■胞衣壺(えなつぼ)
生まれた子供の成長を願い、胎盤とまじないの銭貨などを共に埋めたものです。



■和歌木簡
「波流奈礼波(はるなれば…)」と万葉仮名(まんようかな)で書かれた歌が記されています。



■灰釉陶器(かいゆうとうき)
古代では最新の高級国産陶器でした。大きいものはしびんの可能性もあります。



■緑釉陶器(りよくゆうとうき) (左)・白磁(はくじ) (右)
国産の高級品であった緑釉陶器や、輸入品である白磁は特に貴重でした。



■越州窯青磁壺(えつしゅうようせいじつぼ)(破片)
中国で生産された青磁は最も貴重な磁器の一つで、古代では最北の出土例です。



ものづくりの職人

漆工房や鍛冶工房と見られる建物跡や、職人が使った道具類が多数見つかることから、秋田城内で日用品や武器類の生産が行われていたことが分かっています。

また、日常に使われた土器類の多くは周辺の添川・上新城地区などに窯を設けて生産していたことが分かっています。



■木製品
鋤などの農具や日用雑器のほか、漆を塗るための刷毛なども出土しました。



■刀と鉄鏃
鉄製の刀とやじりです。城内でも武器などを作っていました。

秋田城跡でしか見つからないものや、一番北の出土例のものがたくさんあるんだね!





交流を語る宝もの

出土した遺物の中には、都や秋田城で作られたものの他に、周辺の蝦夷の人々が使っていた土器や、北陸・関東などから秋田城へと移民して来た人々が持ち込んだもの、物資につけた荷札状の木簡などがあり、人や物の交流を知ることができます。

また、秋田城は国内の交流だけでなく、大陸の渤海^{ぼっかい}国との外交でも重要な施設であったと考えられています。土取り穴から出土した鉄製罫釜^{つばがま}は、当時の日本で生産されていたものではなく、大陸の渤海国で作られたものとよく似ています。当時の交流を探る貴重な資料です。



■墨蝦夷の長胴甕ちやうどうがめ うしろじょう（後城遺跡）

蝦夷の人々が煮炊きなどに使った土器で、頸部の段に特徴があります。



■持ち込まれた土器類

関東や畿内、北陸から移住してきた人達が持ち込んだと考えられます。



■鉄製罫釜

奈良時代に大陸の渤海国との外交交流があったことがうかがえる貴重な資料です。



土取り穴は宝箱

復元した外郭東門のすぐ隣にある「土取り穴」は、築地塀の構築などに用いる粘土を採掘するために地面を大規模に掘り下げたもので、穴はすぐに埋められることなく、湿地状のくぼ地になりました。そこは、様々な遺物を捨てる場所として長い間利用され、水分を多く含んだ土と一緒に沢山のものが積み重なっていきました。

遺物は水分によって腐食から守られ、通常では残らないような木簡や漆紙文書、木製品などが多数出土しました。また、年代が記された資料と一緒に出土した土器の形を比較して、年代ごとの土器の違いも分かりました。



井戸や沼といっしょで、水があるところから貴重なものがたくさん発見されるんだね。



■土取り穴発掘調査の様子

秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL]018-845-1837 [FAX]018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp

